

資料

神田神社神事切籠踊音頭

上歌

- 一、今年の稲の穂成りさの良さや葦毛あしやげの駒の尾の如く。
- 二、絵の絵の、須磨すまの、三ツ又またえのき榎えのみな、榎実成らいで金が成る。
- 三、今夜こよゆは祭りの十三日〔盆の十五日〕しだれて遊ぶ笠の虫。
- 四、柳のふもとに芹せりを摘む誰か、彼れあこそ我が殿御われなり

一、此間 御庭

一、次に謡い

高き屋に登りて見れば煙たつ、民のかまどの饒にぎわひにけり。

始

- 一、足踏みならして場を広め、空から鶴ひつがしの一番田舎の町へと羽卸す。

一番 白金しろかね

- 一、白金の白金のよい、御門の扉を押して開き、参りて見れば、唐の御鐘楼、あーら見事いよ。
- 二、御殿の懸りを眺むれば、八つ棟造りに松皮葺ひわだかき、八つの破風はかには、黄金なるもの、あーら見事いよ。
- 三、御椽の懸りを眺むれば、目口揃えて鎗やりが千本、鎗が千本、鎗の数さえあるならば、高麗こまや対馬の唐の御鐘楼か、唐の御鐘楼 あーら見事いよ。
- 四、馬屋の懸りを眺むれば繋ぎ止めたる名馬七匹、中に立ちたる黒の馬、重陽ちやうよう参りと前搔まえかきをする前搔ちやうようきをする。

二番 御門の松

- 一、これの御門の松見れば、五葉の松には、露降り懸りあの松を見るに付けても松女恋しや、恋しや。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、思ふ松女の帷子かたびらは山口染か上染か肩には唐獅子唐駒よ 裾には鳶たづなが舞ひ添うよ。

○四つ拍子、いーや裾には鳶たづなが舞ひ添うよ。

- 二、これの花壇の菊見れば黄菊白菊咲き乱れ、あの菊を見るに付けても菊女恋しや、恋しや。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、繰り返し

三、これの御背戸の池見れば、井の亀が蝦を、くわえて浮きに浮きそうよ、あの亀を見るに付けても亀女恋しや、恋しや。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、思う亀女の帷子は、山口染か上染めか肩には唐獅子唐駒よ 裾には葛が舞ひ添うよ。

○四つ拍子、いーや裾には葛が舞ひ添うよ。

三番 薩摩

一、薩摩の国の長者殿は兄弟連れで伊勢参り

○拍子 シャン

◎踏場 一、薩摩の国の宮女郎は目で見てさよざに恋となる肌上添うたら尚よかろう

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、繰り返し

二、薩摩の国の長者の姫を見とめて置いて嫁に取ろう。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、繰り返し

三、我が殿御にやりたいものは、弓と鞆鞆と的やと素箭と双六盤とさやの目と。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、繰り返し

四番 清水

一、清水の御所の御前に上波打ちがあるとも、あるとも、打つ姫が今年十三打たれる姫が九つ、九つの、このみ

小心 にしゆみせん小刀を構えて若い衆も聞けよ伝えよ、人の殿御の寝とる間に、寝とるまじとは思そらねど人が情けを懸けうもの、これ迄は女郎と呼ばれて、今年や姉子の水を汲む、水を汲めば祐も濡れそうよ汲まねば姉子の御意背く、汲まねば姉子の御意背く。(祐)は「袖」の誤りか?)

五番 鶯

一、鶯がこれの御所へ巢を掛けて扉踏まえて月を眺むる。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、様は三日月夜に御座る、せめて一夜は有明よう。

○拍子 チツカンカン、 チツカンカン、 カコカンカコカン、 チツカンノカン

二、鶯が稲の下葉に巢を掛けて小板踏まえて月を眺むる。

○拍子 シャンシャン

◎踏場一、繰り返し

三、鶯が梅の古木に巢を掛けて小板踏まへて月を眺むる。

○拍子 シャンシャン

◎一、繰り返し

六番 人の姫女

一、人の姫娘を忍ぶには御縁鳴らささじ、戸鳴らさじ、人に知らさじ、物言わじ

◎踏場 一、許せましよう、汲んだる水はゆうりたぶとき溢れる、いゝなものよ、うつす、なのみいで。ひんやそーれ、ちゃんちゃん、ちゃん
ちゃん、ひつちやちゃ、ちゃん

二、人の姫娘を忍ぶには狭い小路で、はたと逢い、そこつながらも汲んで見たさよ。

◎踏場 一、繰り返し

三、白木弓引いて見さいや、射てみさい、女郎と弓とは殿御任せ。

◎踏場 一、繰り返し

七番 七君竹

一、これの、表の、七君竹は本は尺八、中煎茶、茶柄杓、末はしゃのり、しゃーの、おー菊招きじやーある

いよしゃん、しゃらり、おー菊招きじやあーる、いよしゃんしゃらり、
二、高い御櫓夫役でなるが、人の小娘は玉章でなるよ、豊後女郎衆は白金でなるよ

おー菊招きじやあーるいよーしゃんしゃーらり、おー菊招きじやーる、いよしゃんしゃーらり
三、おわりを若い衆は山下の五りん、温めり茶臼で挽くに挽かれぬ、おー菊招きじやーるいよ

じゃんじやーらり、おー菊招きじやあーる、いよじゃんしゃーらり。

八番 竹娘 たけじょう

一、やあ今日は日も好い干支も良い、赤ね染めして襟上げて、あれこそ竹娘の帷子よ 帷子よ。しやんしやん えりあ かたびら

◎踏場、一、はんなの竹娘は、さい鳥指しの御上手、きりりと廻るは山鳥よ、紅吹き寄せて吹き寄せて小腰屈ねて、御指あらう。 さあ おんじょうず やまがら しゃが おさし

二、あの山峠に茶屋が建ち、お茶の初穂を竹娘にと、我れも汲まず、竹娘にと、竹娘にと。

○拍子 シャンシャン

◎踏場 一、繰り返し

三、あの山子陰の鷺は、あれこそ竹娘の飼鳥よ飼鳥よ。しやんしやん。 あらしや

◎踏場 一、繰り返し

九番 法丸 ほうがん

一、駿河と申す、御聖人は、金のかんじん、めされそよ、金のかんじんめされそよ、めされそよ。 おひじり

◎踏場、一、鑄るは、しどろもどろ、踏め、鞆、踏め鞆。 い たたら

二、今日は吉日を鑄る、其の音良かれと、銘を鑄る、銘を鑄る。

◎踏場 一、くり返し

三、鐘吊り上げて音を聞かば、鐘の音も良し、うれしかろ、法丸殿も、うれしかろ、うれしかろ。

◎踏場 一、繰り返し

十番 御十六 おじゅうろく

一、に御十六、二に大阪、三に住吉、正社の反橋、あいら、まだ夜は夜中、しゅーめて、およれや女、

二、我を忍ばば陰御座れ、陰の小草が物言わば、あいらまだ夜は夜中、しゅーめて、御座しや女

三、連れて御座れ、大殿山端谷川の水を汲むとも、あいら、まだ夜は夜中、しゅーめて、およれや女、 たどのやまば

十一番 神箱 じんばこ

一、夏衣、夏衣、君の召したる、肌小袖、たびしの臭い散るや欲しさや。 なつころも なつころも

◎踏場、一、思う方から神箱得たが三縊り二縊り掛け小縊りをより中の神より其身恋しや。 なつころもなつころも

二、夏衣夏衣我れは、一重に思えども、君のために、うらやなるらん。

◎踏場 一、繰り返し

三、垣根竹垣根竹、其俣垣そのまきかきに結び込めて、それこそ人の、ゆういなし。

◎踏場 一、繰り返し

十二番 源次郎 右舞

一、さーまれ源次郎様、えーどちー御座る。さくわなわて桜さく暇わなわてに、えー鳥を指しに、鳥を指すには、えー朝が良い。

鳥を指さいで、えー姫を指す。姫女踊は、えー面白、姫女踊は、えー面白や、

姫女踊は、えー是迄か、姫女踊はえー是れ迄よ（終わり）

- 一、おひゃー ひゃーひー
- 二、おひゃー、ひゃ、ほひゃー、ひー
- 三、おひゃー、ひゃ、ほい、ほい、ほい、ひほー、ひほー。
- 四、おひゃー、ひゃ、ひゃほほほ。
- 五、ほほほ、ひーほい、ほい、ひほー、ひほー。

広島木やり節

秋祭りの時の俵みこしの囃はやしに歌われるのがこの木やり節や道中雲助である。

- 一、伊勢はナア津でもつよ「ヨイヨイ」
津は伊勢で持つ「アリヤソーコセソーコセ」
尾張り名古屋は「ソオレエーサエ」持つよ
「アリヤヨーイヤセヨイイヤセ」
アレワイセコレワイセサーサナンデモセ」
「ヨイサ ヨイサ」
- 二、伊勢のナア花桶はなたけよ「ヨイヨイ」
泣き輪がヨオ切れて
「アリヤソーコセ、ソーコセ」
今年しや言はりよと「ソーレエーサエ」
覚悟をしたよ「アリヤヨーイヤセ」……

- 三、伊勢にナア参るがよ「ヨイヨイ」
事付きやヨオ無いかよ「アーリヤソーコセ」……
伊勢のナアかんざしや「ソーレエーサエ」
ほしゅうは無いかよ「アリヤヨーイヤセ」……
- 四、伊勢にやナア七度よ「ヨイヨイ」
熊野にやヨオ三度よ「アリヤソーコセ」……
あたごナアさんには「ソーレエーサエ」
月よ参りよ「アリヤヨーイヤセ」……

- 五、うれしナア目出たのよ「ヨイヨイ」
若松ヨオ様よ「アリヤソーコセソコセ」
枝も栄えりや「ソーレエーサエ」
葉もしげるよ「アリヤヨーイヤセ」……
- 六、目出たナア目出たがよ「ヨイヨイ」
三つ四つ五つ「アリヤソーコセソーコセ」
五つ重さなりや「ソーレエーサエ」
五葉の松よ「アリヤヨーイヤセ」……
- 七、うれしなア目出たのよ「ヨイヨイ」
若松ヨオ様よ「アリヤソーコセソーコセ」
末はナア鶴亀「ソーレエーサエ」
五葉の松よ「アリヤヨーイヤセヨーイヤセ」

道中雲助

- 一、道中ナア雲助アよ「ヤレヤレ」
裸で道中長い着物にやよ
えんが無いノオエー「ヨイサーヨイサー」
- 二、お江戸ナア出てからよ「ヤレヤレ」
まだめしや食べぬ、どこの宿でもよ
酒々とノオエー「ヨイサーヨイサー」
- 三、道中ナア雲助よ「ヤレヤレ」
花ならばつぼみ、どこの宿でもよ
酒々とノオエー「ヨイサーヨイサー」
- 四、今年ナア豊年だよ「ヤレヤレ」
穂に穂が咲いて道の小草にもヨオ
米がなるノオエー「ヨイサーヨイサー」
- 五、道のナア小草にもよ「ヤレヤレ」
米がなる時は山の木かやにもよ
金がアなるノオエー「ヨイサーヨイサー」

一、アーアイナー ウオーエー

誰もどなたも ご苦労さんよ

オイサアー ソレサー

古いも 若衆も 笑顔でそろた

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

そろたそろたよ 踊り子が そろた

オイサアー ソレサー

稲の穂よりも きれいに そろた

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

さあさ踊ろうよ 太鼓にあわせ

オイサアー ソレサー

音頭とるとる 気持ちもそろろう

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

二、アーアイナー ウオーエー

さあて福田の お話しよう

オイサアー ソレサー

わたしら住む町 福田の里は

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

今も昔も 交通要め

オイサアー ソレサー

二千年前 弥生の時代

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

人が住んでて 木ノ宗山から

オイサアー ソレサー

銅鐸 銅劍 銅戈が出た

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

三、アーアイナー ウオーエー

ぐるりが山の わしらの里は

オイサアー ソレサー

谷川集めて 福田川生まれ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

いつの頃にか 水田みずたができた

オイサアー ソレサー

それは古墳の 頃かもしれん

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

米を作つて ここ住みついて

オイサアー ソレサー

福田の里が 始まりだした

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

四、アーアイナー ウオーエー

時は流れる 文化も移る

オイサアー ソレサー

木ノ宗頂き 砦があつた

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

戦国面影 今なお残す

オイサアー ソレサー

毛利 吉川 その物語り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

記録うれしや 詳しく語る

オイサアー ソレサー

由来伝えよう わしらの祖先

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

五、アーアイナー ウオーエー

神田八幡 氏神さまよ

オイサアー ソレサー

祭神三柱 玉依り姫様

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

応神 神功 伝えた舞は

オイサアー ソレサー

十に神祇に 切籠の踊り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

切籠に音頭 言葉はあれど

オイサアー ソレサー

ああ口惜しや 舞がわからん

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

六、アーアイナー ウオーエー

小宮四宮 黄幡神社

オイサアー ソレサー

若宮神社 河内の神社

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

大歳神社 守り神さま

オイサアー ソレサー

疫病防ぎ 生命を守る

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

水を裁き 豊作祈る

オイサアー ソレサー

秋の大宮 感謝の祭り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

七、アーアイナー ウオーエー

さて西善寺 浄土真宗

オイサアー ソレサー

親鸞上人 門徒の心

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

阿弥陀如来は ご本尊様よ

オイサアー ソレサー

ご先祖供養 毎年八月

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

一族集うて 南無阿弥陀仏

オイサアー ソレサー

供える灯籠は 福田の華よ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

八、アーアイナー ウオーエー

門徒の楽しみ お盆の踊り

オイサアー ソレサー

浴衣に内輪ウチワ 身振り軽やか

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

老若男女 ろうじやくなんじよ 合わせる手足

オイサアー ソレサー

仏と祖先に お礼の踊り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

年に一度で あるけれどもが

オイサアー ソレサー

躍つて残そう 福田の伝統

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

九、アーアイナー ウオーエー

大字福田 おおあび こあひな 小字九つ

オイサアー ソレサー

その名といわれ 残したいもの

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

青年会も 各地区あつた

オイサアー ソレサー

いつの時代も 若者 宝

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

福田の名に似ぬ 少ない水田

オイサアー ソレサー

人数多く 副業いろいろ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十、アーアイナー ウオーエー

ぐるりお山の 幸に恵まれ

オイサアー ソレサー

木ノ宗山に 三本木山

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

鷹の条山 二か城山

オイサアー ソレサー

自然のうちに 人を育てた

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

藩への年貢 運ぶ牛馬の

オイサアー ソレサー

旧道面影 かすかに残る

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十一、アーアイナー ウオーエー

莊園頃は 安北郡あんほくこおり

オイサアー ソレサー

江戸の中頃 高宮郡

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

明治二十二 町村制で

オイサアー ソレサー

馬木と合併 福木村出来

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

三十一年 安佐郡となり

オイサアー ソレサー

戦後も同じ安佐郡福木

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十二、アーアイナー ウオーエー

千九百の 五十六年

オイサアー ソレサー

温品合併 安芸郡安芸町

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

七十四年は 広島市となり

オイサアー ソレサー

やがて区制で 東区福田

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

町名変更 呼ぶ何丁目

オイサアー ソレサー

消えてなるかや 小字こあざなの名よ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十三、アーアイナー ウオーエー

今はすっかり 機械化農業

オイサアー ソレサー

面影もない 人畜農業

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

親鸞上人 誕生日頃

オイサアー ソレサー

そろそろ始まる 苗代支度

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

田起し代掻き 牛馬と共に

オイサアー ソレサー

田植えは寄り合い 近所と共に

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十四、アーアイナー ウオーエー

田植え終われば 早々草取り

オイサアー ソレサー

ほっと一息 半夏の休み

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

稲の穂先で 目を突きながら

オイサアー ソレサー

腰痛我慢の 拾い草取り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

炎天汗だく ひたすら願う

オイサアー ソレサー

気持ちと裏腹 疲労の蓄積

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十五、アーアイナー ウオーエー

虫や病気の 手入れに努力

オイサアー ソレサー

垂れる稲穂は 辛苦の結晶

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

野に柿 ぶどう 山に松茸

オイサアー ソレサー

稔りの秋の 大宮祭り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

花火を焚いて 神楽を舞うて

オイサアー ソレサー

神々様に 感謝のゆうべ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十六、アーアイナー ウオーエー

手刈り稲刈り はで掛け干して

オイサアー ソレサー

刈田起して 麦蒔き多忙

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

ほつと息する 恵比須講祭り

オイサアー ソレサー

節目節目に 楽しい休み

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

手足で稲こぎ 取り入れ済ませ

オイサアー ソレサー

麦 手入れして 新年迎える

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十七、アーアイナー ウオーエー

八朔 七か日 トンドに節句

オイサアー ソレサー

観音さんや 小宮の祭り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

食べて話して 笑うていやす

オイサアー ソレサー

年に何回 目先の楽しみ

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

肉体労働 適度の休日

オイサアー ソレサー

ご先祖様の 工夫と知恵と

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十八、アーアイナー ウオーエー

学制発布 明治の五年

オイサアー ソレサー

創立六年 名は英育館

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

二十六年 尋常小学

オイサアー ソレサー

初め四年の 修業年限

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

三十二年に 高等科置く

オイサアー ソレサー

四十一年 修業六年

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

十九、アーアイナー ウオーエー

大正十二に 村の中程

オイサアー ソレサー

新築移転 馬木と一緒

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

昭和二十二 村立と呼び

オイサアー ソレサー

温品合併 町立名乗る

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

四十九年に 広島市立

オイサアー ソレサー

大規模校の 福木小学

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

二十、アーアイナー ウオーエー

先人ことわざ 伝える話

オイサアー ソレサー

藁や木や竹 農民工学

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

盆の踊りに 太鼓と音頭

オイサアー ソレサー

独楽にあやとり 遊びの数々

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウオーエー

年中諸行事 変化はあれど

オイサアー ソレサー

残していこうよ 伝承文化

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

二千二、アーアイナー ウォーエー

続く命の 福田の文化

オイサアー ソレサー

今 ここにあり 次へとおくる

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウォーエー

互いに助け いたわりあつて

オイサアー ソレサー

温か気持ちと 一緒に送る

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー

アーアイナー ウォーエー

こぞつて楽しみ 踊つて残そう

オイサアー ソレサー

みんなの財産 伝承踊り

アラヤー ハトセー エーヤー ハトセー